第123号　　平成30年度　No.2　　3月

愛視協だより

発　行　愛知県視聴覚教育研究協議会
事務局　名古屋市東区東桜１－13－３
ＮＨＫ名古屋放送局内
TEL（052）952 － 7293

第56回 東海北陸地方放送教育研究大会
第50回 愛知県放送教育特別研究会

研究主題「未来を拓く学びの場を創造しよう」

開催日 平成30年８月23日（木）　会場 ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

開会行事　ならびに　講演

感じる心を育てる部会

デジタルコンテンツ活用部会

情報モラル研究部会

メディア研究部会

平成30年度 校種別県大会
第50回 愛知県学校視聴覚教育研究大会

主　題

子ども達の学びを深める情報教育 ～主体的・対話的な学びを支える情報活用能力の育成～

会　場：名古屋市教育館　　開催日：平成30年10月31日（水）

記念講演会　主体的・対話的で深い学びの実現のための放送番組・ICT の活用

講　師　茨城大学教育学部 情報文化課程 准教授　小林　祐紀 氏

整備が進むタブレット端末の有効活用と、子どもたちの学びに関する実践研究や小学校プログラミング教育に関する研究に取り組んでいる小林祐紀氏を迎えて、講演が行われた。

小林氏は、主体的・対話的で深い学びの実現のための放送番組・ICTの活用について、「教育ICTを取り巻く状況」「放送番組・タブレット端末を活用した実践事例」「イメージ共有！プログラミング教育」の３つの具体的な事例を交えながら論じた。

教育ICTを取り巻く状況では、「教育用コンピュータ１台当たりの児童生徒数」「ICT環境の現状」「普通教室の無線LAN整備率」について説明した。愛知県平均値の「教育用コンピュータ１台当たりの児童生徒数」は、7.8人/台であり、全国平均値の5.9/台より下回っていた。「ICT環境の現状」は、全国の小中学校・高等学校のタブレット端末の導入台数を取り上げ、平成29年３月現在は約37万台で、３年前の約７万台より5.1倍に増加した。「普通教室の無線LAN整備率」は、愛知県平均値は27.3％で全国平均値の29.6％より２ポイント下回っていた。

放送番組・タブレット端末を活用した実践事例では、「教師の活用」と「児童生徒の活用」について説明した。「教師の活用」では、一斉学習例として、放送番組の活用を取り上げ、授業の振り返り・わかりやすい補足説明・授業導入時の興味関心の引き出しなどを紹介した。また、放送番組に寄りかかるからこそ見える、改善するべき工夫や手立てについて力説した。「児童生徒の活用」では、タブレット端末を活用した個別学習例と協働学習例について説明した。個別学習例として、一人一人の習熟程度等に応じた学習や、シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習などを紹介した。また、協働学習例として、グループ学習や学級全体での発表・話し合い、複数の意見・考えを議論して整理する協働での意見整理などを紹介した。

「イメージ共有！プログラミング教育」では、最初にプログラミング的思考の位置付けについて説明し、児童の思考を焦点化させるための授業モデル例を紹介した。簡単なモデルの提示、見通しをもたせた考え方の例示、十分な具体物を使った操作体験、プログラミング的思考のおさえ・身近な社会とのつながりを踏まえた学習のまとめが取り上げられた。

記念講演のまとめとして小林氏は、放送教育・タブレット端末活用の方向性について、活用が固定化されていないかという問題提起をしながら、「教師自ら仮説を立て、とにかく使ってみて、より良く活用し、これまでの実践知を活かすことが大切だ」と述べた。

第1部会「感じる心を育てる部会」

提案者　佐藤　大介（豊田市立拳母小学校）
　　櫻井　元太（金沢市立十一屋小学校）
助言者　佐藤　幸江（金沢星稜大学）

提案１では、プレゼンテーションソフトを使って、子どもたちにリズムを視覚的に捉えさせることで、「リズム打ち」に自信をもたせ、楽しんで音楽の学習に臨ませるという実践が、教材のつくり方を交えて発表された。

提案２では、「ことばドリル」「おはなしのくに」「お伝と伝じろう」などの視聴覚教材をより効果的に活用するため、必要な部分だけを提示することで、語彙力を伸ばしたり、相手の立場になった言葉の使い方を身につけさせたりする実践が発表された。

協議では、「目的に合った番組を組み合わせたり、必要な部分だけを見せたりする必要があること」「番組を通年で見せるのではなく、番組ごとに吟味する必要があること」「学びを深めるために、視聴する回数を増やしてICTに慣れさせたり、視聴する視点や振り返る視点を事前に与えたりする必要があること」などが話し合われた。

発表の後、助言者からは、番組を活用するねらいを明確にすることと、子どもたちが主体的に活動するための話し合い活動を取り入れたり、ワークシートを工夫したりすることが必要であること、番組を討論の導入や想像力を刺激するものとして活用し、知識をつけさせるだけで終わらない工夫が必要であるという助言をいただいた。

第2部会 「デジタルコンテンツ活用部会」

提案者 夏目 照久（新城市立東郷東小学校） 上田 和義（敦賀市立敦賀西小学校）
沼山 泰幸（名古屋市立桶狭間小学校） 髙橋 雄大（稲沢市立領内小学校）
助言者 重神 俊文（敦賀市立中央小学校） 武内 浩二（犬山市立城東中学校）

提案１では、プログラミング教育を、低学年では「ビスケット」、中学年では「スクラッチ」、高学年では「スクラッチ」に合わせてワードやパワーポイントなどのソフトを使い、総合的な学習の時間を柱としての実践が発表された。NHK for School の「why!?プログラミング」を利用して、朝や昼放課でコンピューター室を開放したり、パソコン操作の得意な児童をICTリーダーに任命して児童相互の関わりを増やしたりする工夫により、成果をあげていた。

提案２では、教員のICT機器活用スキルアップを図り、タブレット端末や電子黒板を活用した授業を構成して主体的・協働的な学びの充実を目指した実践が発表された。授業でICT機器を活用する場面が増え、考えを深めたり話し合ったりし、学力の向上に成果が見られた。

提案３では、児童が体験したことを「情報カード」に整理し、交流することで「情報深化カード」にまとめ伝える活動につなげ、総合的な学習の時間を柱とした実践が発表された。事前学習でインターネットを使用する際、NHK for School の「しまった～情報活用スキルアップ～」を活用して情報収集を行った。体験活動での感動や驚きを観点別に整理し、意見交換で気付きを増やし、考えを深めることができた。

提案４では、家庭のICT機器の保有や利用の実態把握をしたうえで、発達段階に合わせた情報モラル指導カリキュラムを作成し、NHK for Schoolを活用した情報モラル教育の実践が発表された。映像資料が効果的で、部分視聴できるよさもあり、作成したカリキュラムがよりよいものとなった。

発表の後、助言者からは、プログラミング教育はコーディングの暗記ではなく、プログラミング的思考を育むことや学びの必然性が意欲につながること、R-PDCAサイクルがよいこと、深い学びへの手助けとしてコンテンツやカードを活用すること、保護者や地域への情報モラル教育の発信が大切であるという助言をいただいた。

第3部会 「情報モラル研究部会」

提案者 加賀 洋平（蟹江町立蟹江小学校） 石川 幸大（名古屋市立枇杷島小学校）
加子 輝彦（田原市立福江小学校）
助言者 上田 康司（豊橋市立岩田小学校）

提案１では、児童がNHK for School「スマホ・リアル・ストーリー」や情報モラル教材を視聴し、インターネット上に情報を発信する上での注意点や、安全に正しく使うために気をつけなければならないことについて話し合い、正しく情報を取り扱う意識を高めていく実践が発表された。

提案２では、児童がNHK for School「スマホ・リアル・ストーリー」を視聴し、SNSを介して写真を送る上での注意点について話し合ったり、SNS上での会話の中で起こったトラブル事例から、問題点や気をつけるべきことなどを話し合ったりして、相手の気持ちを考え、思いやりの心をもって情報を発信する意識を高めていく実践が発表された。

提案３では、情報モラル教育を難しいものだと感じさせないよう、取り組みやすい実践を公開し、各校で実践してもらえるように啓発したり、各校での情報モラル教育の取り組みを学校間ネットワークで共有したりして、情報モラル教育の推進を図る取り組みが発表された。

協議では、「情報モラル教育は、児童・生徒がスマホなどの情報機器を持ってからでなく、持つ前から行う必要があること」「学校での情報モラル教育の取り組みを、おたよりや授業参観、個人懇談会などを通して保護者に啓発し、家庭を巻き込んだ取り組みが必要であること」「各教科・領域の中で、児童・生徒の実態に即して、情報モラル教育を系統的に行うことが大切であること」などが話し合われた。

発表の後、助言者からは「情報モラル教育は、日常モラルを育てながら、情報技術の特性を理解させ、それらを組み合わせて考える態度を育てることが重要である」「問題事例を取り上げ、日常モラルのどこに問題があったのか、自分だったらどう行動するかを判断させながら指導をするとよい」という助言をいただいた。

第4部会 「メディア研究部会」

提案者 石川　紘基（愛知県立中川商業高等学校）
渡辺　力樹（愛知県立南陽高等学校）
助言者 中元　大生 氏（愛知県総合教育センター情報教育部情報システム研究室研究指導主事）

提案１では、「NHK for School『昔話法廷』を活用した授業実践とアクティブ・ラーニング」の発表がおこなわれた。課題研究「プレゼンテーション研究」において、NHK for School を活用することが、生徒の「考える力」を育み、学習意欲の向上に繋がるのではないかと考え、裁判員裁判を体験させながら授業を実施する取組について報告された。具体的には、NHK for School『昔話法廷』に用意されている指導用資料・ワークシートを活用しながら授業を展開する。そこから一歩進み、自分が考えたことや主張をPowerPointでまとめて全員に発表させる。自身の「気付き」「考えたこと」を他者に説得力を持って伝える力を育むことができ、能動的な学習に繋がったと考えられる。

提案２では「視聴覚教材を活用した授業準備・授業展開に関する提案」の発表が行われた。番組を参考に、教員が効果的に指導を行う方策を探り、そのうえで生徒が発信する放送教育の可能性について発表が行われた。「ラーニングピラミッド」を例にあげ、テレビ番組を補助教材として有効活用することにより、授業の質を上げ、生徒に学習の意義を実感させることができるのではないかという提案がされた。実践案として「NHK高校講座」「ガイアの夜明け」、プログラミング教育という視点から「ピタゴラスイッチ」の活用などがあげられた。また、放送を受信するだけでなく発信することで、「受信オンリーの放送教育」から「相互発信により教えあう放送教育」に転換することが視聴覚教育の可能性を広げ、未来を拓く学びの場の創造に繋がるとの提言があった。

助言者からは、ICT機器を適切な場面で効果的に活用することで「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現につなげていくことが大切であり、生徒に考える力を身に付けさせ、学習意欲の向上に繋げることが重要であるという助言をいただいた。

NHK for School × アクティブ・ラーニング　実践ワークショップ in 名古屋

８月23日（木）、NHKの学習コンテンツを授業で効果的に取り入れるためのワークショップを、愛知県放送教育特別研究会の会場を利用して開催した。

テーマは、現場の先生方から要望の多い「道徳の教科化」「プログラミング教育」「外国語教育」の中から、より授業に取り入れやすい「道徳」とし、筑波大学教育学部の小林祐紀先生を講師に迎え、NHK for School の道徳番組「ココロ部！」を利用したワークショップ形式で進行した。

また、今年度全国大会が行われる広島県から世良大典先生（広島県立伴小学校）をお招きして模擬授業を行ったほか、NHK青少年・教育番組部の古田プロデューサーがNHK for Schoolの新番組を取り上げるなど、様々な切り口から活用法を紹介した。

当日は台風の接近に伴い、終了時間を当初の予定よりも40分ほど早め、一部の内容を省略することになったが、参加者アンケートでは「授業における具体的な活用方法が分かった」「ほかの教科でも講習を行ってほしい」などの好評意見を多くいただくことができた。

2020年度の小学校における新学習指導要領の全面実施を皮切りに、教育現場は今まで以上に大きな変化の中に身を置くこととなる。NHKとしてもより効果の高いコンテンツを提供できるよう、現場の先生方との連携を密にしていきたい。

タブレットで動画視聴など

世良大典先生の模擬授業

古田プロデューサーによる番組紹介

小林祐紀先生による解説

第50回愛知県学校視聴覚教育研究大会

平成30年10月31日（水）、第50回愛知県学校視聴覚教育研究大会が、名古屋市教育館にて行われた。今回は名古屋市情報教育研究会研究部（以下「名情研研究部」と称する）が昨年度から取り組んでいる、子どもたちの情報活用能力の育成についての研究の成果を参加者の方々に観ていただいた。

【名古屋市情報教育研究会研究部の研究について】

１　研究主題

子ども達の学びを深める情報教育

― 主体的・対話的な学びを支える情報活用能力の育成 ―

２　なごや式授業づくりと研究の関連

名古屋市では、授業づくりの重点として、「なかま」との対話を大切にした、主体的な「学び」を目指し、どのような力を付けるのかといった授業に対する「ビジョン」をもつという「なかまなビジョン」が示されている。名情研研究部は、「なかまなビジョン」に示されている学習の流れと情報活用能力を育成する学習の流れを関連付け、昨年度から研究を進めている。

３　研究の実際

実践１：小学校３年生　社会科「市の様子」

名古屋港周辺の土地利用を表す地図を基に、話し合う学習を行った。土地利用の様子を表す４種類の地図を重ね合わせ、その地図を基にした対話を通して、複数の情報を関連付けて考えたことで、子どもの学びを深めることができた。

実践２：小学校５年生　道徳「信頼し合える仲に」

教科書の題材「知らない間の出来事」にある、携帯電話のトラブルについて扱った。２つの立場に分かれて話し合わせる際に、自分の考えを付箋紙に書き、自分の考えと友達の考えとを比較することで、子どもの考えを深めることができた。

実践３：小学校５年生　総合「言葉でのコミュニケーションについて考えよう」

「インターネット上でやりとりするときに気を付けることは」という課題に対して、対話を行った。意見交流を行い、自分の考えと友達の考えを比較し、情報を収集・整理することで、子どもの考えを深めることができた。

３つの実践は、研究主題「子どもたちの学びを深める情報教育」を達成するために、主体的・対話的な学びを支える情報活用能力を各教科・領域を通じて育成し、活用させることで、思考力・判断力・表現力の伸長を目指し、自分の考えを深めることができる子どもの育成へと繋がるものであった。

第22回視聴覚教育総合全国大会・第69回放送教育研究会全国大会合同大会

第22回視聴覚教育総合全国大会・第69回放送教育研究会全国大会合同大会が、11月16日（金）・17日（土）の両日、広島県広島市にて開催された。

16日（金）は、広島市内５園（広島市立川内幼稚園、広島市立川内保育園、川内菜の花幼稚園・保育園、みのり愛児園）３校（広島市立川内小学校、広島市立城山中学校、広島市立広島特別支援学校）で実践発表が行われ、NHK for Schoolや実物投影機、タブレット端末などを活用した多くの実践発表があった。

17日（土）は、ワークショップ・セミナーや研究交流が開催され、参加者が積極的に研修に取り組む姿が見られた。

第35回 ＮＨＫ杯 全国中学校放送コンテスト 愛知県大会

平成30年6月30日（土）　ＮＨＫ名古屋放送センター

６月30日（土）、県下から多数の参加者を得て第35回放送コンテスト愛知県大会が開催された。

「ラジオ番組部門」９本、「テレビ番組部門」９本、「アナウンス部門」38名、「朗読部門」40名の参加があり、日頃の練習の成果を競い合った。結果は、下記の通りであった。

ラジオ番組部門

- **優　秀**　名古屋市立守山北中学校　「手を挙げようYO ！」
- **優　良**　岡崎市立新香山中学校　「名前も知らない友達」
- **優　良**　名古屋市立大曽根中学校　「コミュニケーションのとり方」
- **入　選**　岡崎市立北中学校　「女子力って言わないで」
- **入　選**　椙山女学園中学校　「あの子、スマホ欲しいってよ。」

テレビ番組部門

- **最優秀**　岡崎市立北中学校　「僕がきみにできること」
- **優　秀**　名古屋市立守山北中学校　「命と未来を守るために」
- **優　良**　岡崎市立新香山中学校　「地域に根差した環境学習」

アナウンス部門

最優秀	南山中学校女子部	小田　実那美
優　秀	名古屋市立守山北中学校	志水　こはく
優　秀	南山中学校女子部	安井　萌
優　秀	愛知淑徳中学校	岡本　有里子
優　良	南山中学校女子部	尾島　彩祐香
優　良	設楽町立設楽中学校	夏目　康生
入　選	名古屋女子大学中学校	浅野　愛
入　選	名古屋市立守山北中学校	門口　風香
入　選	椙山女学園中学校	若松　春妃
入　選	金城学院中学校	柳井　麗名

朗読部門

最優秀	豊田市立朝日丘中学校	恵良　幾斗
優　秀	愛知淑徳中学校	糸尾　美乃里
優　秀	南山中学校女子部	松本　萌花
優　良	岡崎市立北中学校	兵藤　瑛美莉
優　良	西尾市立寺津中学校	田中　英理
優　良	愛知淑徳中学校	児玉　朋花
入　選	岡崎市立竜南中学校	岩田　雪音
入　選	岡崎市立北中学校	髙藤　理乃
入　選	愛知淑徳中学校	桑原　実佐都
入　選	日進市立日進西中学校	児玉　晶

第35回 ＮＨＫ杯 全国中学校放送コンテスト 全国大会

平成30年８月17日（金）　東京・千代田放送会館

全国大会には、県大会で優良賞以上であった生徒が参加し、以下のとおり素晴らしい結果を残した。

テレビ番組部門

優　良　岡崎市立北中学校　「僕がきみにできること」

朗　読　部　門

優　良　愛知淑徳中学校　児玉　萌花　　岡崎市立北中学校　兵藤　瑛美莉

入　選　南山中学校女子部　松本　萌花